

高度専門医療研究センターとして 高い使命を持ち、医療・研究に邁進



2021年4月より水澤前理事長に代わって理事長を拝命しました中込和幸と申します。今年度のセンター年報Annual Report 2020-2021の発刊にあたって、一言ご挨拶申し上げます。

2020年からわが国もCOVID-19のパンデミックに翻弄され、医療、経済、メンタルヘルスなど、多方面にわたって大きな打撃を受けました。NCNPは、一般医療の枠組みでの対応が難しいとされる精神・神経疾患をもつコロナ感染患者を受け入れ、診療に当たってきました。感染症の専門家がいない中、いかに職員が困難を克服し、誠心誠意の医療を提供してきたかは、本編の特集をご覧ください。

さて、皆さまはNCNP=国立精神・神経医療研究センターとはどういう施設か、ご存じでしょうか。2010年4月施行の「高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律」により、厚生労働省の施設等機関であった国立高度専門医療センターのNCNPは独立行政法人化しました。その後、2015年施行の「独立行政法人通則法の一部を改正する法律」により現在、国立研究開発法人となっています。独立行政法人は、公共上、確実に実施されることが必要な事務・事業のうち、国が直接実施する必要はないが民間の主体にゆだねると実施されない恐れがあるものなどを実施することとなっています。国立研究開発法人とは、独立行政法人のうち、研究開発に係る事務・事業を主要業務とし、研究開発成果の最大化を目的とする法人を指

します。すなわち、研究開発が主務であり、その中でも民間では成果達成が難しいことをする、ということになります。

国立研究開発法人となってから、総称は国立高度専門医療研究センターとなり、新たに施行された「高度専門医療に関する研究等を行う国立行政法人に関する法律」に基づき、その業務内容は、国民の健康に重大な影響のある特定の疾患等に係る医療に関する、調査、研究及び技術の開発並びにこれらの業務に密接に関連する医療の提供、技術者の研修、その他これら業務に係る成果の普及及び政策の提言など、と定められました。したがって、NCNPが、特定の疾患として、精神疾患、神経疾患、筋疾患、発達障害の4領域に的を絞って研究開発を推進するとともに、医療の提供、人材育成、情報発信、政策提言を重視するのは、法律に基づく業務内容だからです。そのため、職員一同高い使命感をもって、これらの課題にチャレンジしています。

NCNPが法律に基づいて、適正に国民の皆さまに貢献しているか、ぜひ見守っていただき、叱咤激励の程よろしく願い申し上げます。

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター (NCNP)
理事長・総長

中込和幸

CONTENTS

- ▶ 理事長メッセージ ————— 2
- ▶ NCNPのミッションと基本理念 ————— 4
- ▶ 座談会：NCNPは新型コロナにどう立ち向かったか～6
～コロナ禍で見えてきた新たな使命と役割～
- ▶ <トピックス>研究と医療最前線2020-2021
 - 1) 脳のなかのシナプスを作る新しい仕組みを発見 — 12
 - 2) 老いた脳の修復力を回復させるメカニズムを発見 — 14
 - 3) 神経細胞発生の仕組みを解明する ————— 16

- 4) 筋疾患の病因・病態解明と治療法開発 ————— 18
- 5) COVID-19流行下の、発達障害のある子どもと親のメンタルヘルス — 20
- 6) 精神保健研究への患者・市民参画 ————— 22
—協働の可能性を探る—
- 7) IRUDの挑戦—未診断疾患をゼロに!— ————— 24
- 8) てんかん原性腫瘍の遺伝子をMRIから予測 ————— 26
- 9) 難病の子どもたちに新しい治療薬を届ける ————— 28
- 10) 精神・神経筋疾患のゲノム情報から発症の遺伝コードを解読する ————— 30

- 11) リアルワールドデータを活用して、医薬品開発を進める ————— 32
- 12) 認知症の早期発見を目指せ ————— 34
—画像診断技術開発の試み—
- 13) デジタルトランスフォーメーション (DX) 時代の遠隔認知行動療法 — 36
- ▶ NEW FACE 紹介 ————— 38

- ▶ NCNPの活動2020-2021 ————— 39
総合内科診療部 / 訪問看護ステーション / 看護活動 / 公開活動 / 研究倫理 / 人材育成 / 連携大学院 / 産学官連携 / 広報活動
- ▶ NCNPの変遷 ————— 48
- ▶ NCNPの組織図 ————— 49
- ▶ NCNPの財務状況 ————— 50